

始め () から () (START) 株式会社 国際マイクロ写真工業社 複写係 (K)

沖縄方面部隊略歴

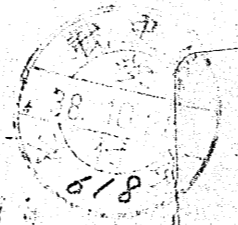
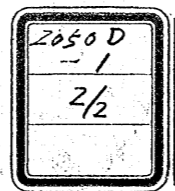
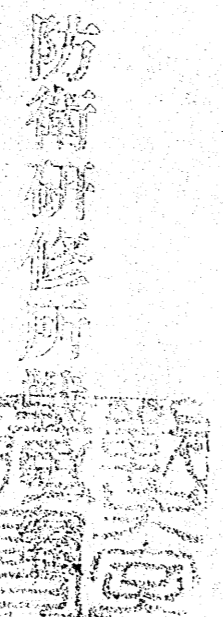
註「南方支那台湾方面艦隊部隊(階級空船船)

略歴(二回) 2050, 2702 ()

たい ()

一復史料

昭和三十六年十二月一日
厚生省援護局



(独立步兵) 28大隊
 (同) 27大隊
 (同) 30大隊
 (同) 300大隊
 (同) 301大隊
 (独立混成) 3旅団工兵隊
 (独立步兵) 27大隊
 (特設) 必機砲隊
 (遊) 車 4中隊
 (独立自動車) 必中隊
 (及野戰貨物搬石運出張所)
 (步兵) 必連隊
 (及師団) 及野戰病院
 大 東 島 支 隊
 (特設) 必機砲隊
 (同) 必
 (独立速射砲) 及中隊
 (同) 必中隊
 (電信) 必連隊 必部
 (重砲) 必連隊
 (奄) 美 陸 軍 病 院
 (陸上勤務) 必中隊

球 球 球
 4831
 2782
 2740
 18830
 14458
 13222
 12447
 12446
 9760
 5676
 5629
 18811
 7030
 18814
 12445
 6476
 6465
 6464
 6463
 6462
 6461

(独立混成) 60旅団司令部
 (独立步兵) 397大隊
 (同) 398大隊
 (同) 399大隊
 (同) 400大隊
 (独立混成) 60旅団砲兵隊
 (同) 工兵隊
 (同) 通信隊
 (独立速射砲) 必中隊
 (同) 必中隊
 (及野戰貨物搬) (先島支隊)
 (及野戰) 移動修理所
 (及野戰兵器廠) (先島支隊)
 (独立機砲) 砲 19大隊
 (重砲) 兵 必連隊
 (船) 浮 陸 軍 病 院
 (及師団) 及野戰病院
 (独立混成) 必旅団司令部

豐 球 豐 豐 駒
 18801
 5688
 4173
 4154
 3323
 18812
 18811
 18810
 18809
 18808
 18807
 18806
 18805
 18804
 18803
 18802
 18801

個有部隊名

通 矢団符号

番 林 号

個有部隊名	通	
	矢印符号	番号
特設警備隊 220 中隊		7075
同 221 中隊		7076
同 222 中隊		7077
独立混成隊 64 旅団司令部		7165
同 21 連隊		7166
同 22 連隊		7167
總之島陸軍病院		1059
22 野戦貨物廠(總之島出雲)		1881
同 兵器廠(〃)		1882
特設警備隊 50 工兵隊		1883
電信隊 23 連隊 1 部		1884
大本營特務隊 1 部		1885
22 軍通信隊		1886

牟田部隊防衛築城隊略歴

年月日	概	要
昭一九七五	満州国公主嶺にて牟田部隊編成	
八七	満州国公主嶺を出発同日釜山到着	
八一〇	朝鮮釜山出發同日九州博多上陸	
八一九	福岡市に宿営	
	福岡出發同日鹿児島市に到着	
	鹿児島市学校に宿営す	
八二三	鹿児島出發沖繩へ	
八三五	沖繩泉那覇へ上陸廿廿廿兵舎へ	
八二九	中飛行場にて築城工事開始	
九一〇	読谷山北飛行場に於て戦斗機入機体(マ4形)工事沖繩県人勤奉隊協力す	
一〇二	中飛行場滑走路工事十日敵機空襲を受け兵一名負傷す	
一〇二	読谷山北飛行場再工事開始す	
二〇二	首里市崎山町通信所構築三ヶ所	
二一四	眞栄平へ通信所構築四ヶ所	
三二四	敵機動部隊本島に來襲兵二戦死一名負傷	

(1)

六三十二軍要塞建築六中隊略歴

(2)	年月日	概	要
昭二〇(三)五		牟田部隊首理市松川五一七高地戦斗に参加 野崎大隊と協力部隊多半戦死 後美田部隊と共に摩文仁迄行動す 其の後不明。	
(3)	年月日	概	要
昭一九三三		西部十七部隊に於て動員完結	
四八		六三十二軍隷下	
四一〇		西部十七部隊出発	
四一四		門司港出発	
四三二		沖繩島那覇市に上陸	
四二八		六五十飛行場大隊指揮下に入る	
四三九		那覇市出発	
四三〇		沖繩島伊江島到着	
四三〇		飛行場設定作業に警備に従事す	
七三六		六一九航空地区司令部指揮下に入る	
七二七		伊江島出発	
七二八		沖繩島北飛行場到着	
七二九		沖繩島読谷村牧原にありて飛行場設定作業並に警備に従事す。	
三三三		牧原にありて甲号戦備に就く空襲艦砲射撃下にありて中飛行場弾痕補修に協力す。	
三三六		六一九航空地区司令部は特編六一連隊編成中隊は六二大隊六六中隊となる	

年月日

概

要

昭二〇、三、二七

中隊は才二大隊予備隊となり牧原の陣地撤収石嶺久得西北高地を占領、陣地構築

三、三一

中隊は連隊の予備隊となる

四、一

敵は西海岸一帯より上陸二四〇〇時攻直斬込隊

四、二

連隊命により騰敷を逐て池原に進出

四、三

池原泉道東方橋梁破壊五六高地占領す

四、四

二二〇高地東方高地を逐て回頭に前進夜明け頃登川部隊南端に於て敵と遭遇

四、九

戦斗、連隊本部と連絡中絶、登川部落、石川岳の間、中隊は各所に於て戦斗す

六、一

中隊は久志岳西方高地に進出陣地構築糧秣聚進

六、二

集遊撃戦斗開始す、陣地交換、敵糧秣集積場攻奪、遊撃戦斗のため石川岳恩約

六、二

岳附近喜仙原附近に於て戦斗す、石川岳陣地構築共合構築す

六、二

連隊恩納岳転進により弾薬糧秣搬送

六、二

連隊は中間岳を逐て久志岳に転進遊撃戦斗に入る命あり中隊は中間岳を逐て転

六、二

進中喜仙原附近に於て戦斗、喜仙原附近にありて遊撃戦斗に入る

六、二

中隊は恩納岳周辺にありて遊撃戦斗を命受

七、一

現下の敵状並に糧秣欠乏の状態、尙発着者多数、弾薬欠乏の有様、急務なる糧秣

と判断、中隊は長期の戦斗に堪ゆる目的を以て分散、喜仙原恩納岳附近に位置し遊撃戦に入る

要塞建築方七中隊略歴

年月日

概

要

至
自
三、一五
四、一二
四、二三
四、二四
四、二五

編成並に輸送業務
編成完結
門司港出帆
那覇(沖縄本島)上陸
沖縄本島警備期向中の業務 四月二十四日以降那覇に位置し左記業務を実施す

左記

- 一 主力を以て軍司令部の陣地強化
- 二 一部を以て興那原軍砲兵の兵舎並に沖繩陸軍病院の病舎建築
- 三 其他随時主力を以て兵站業務特に各部隊上陸に伴う揚陸輸送並に兵器弾薬器材糧秣等の処理に任ず
- 四 津嘉山に於ける陣地強化
- 五 五月末林火尉の指揮する一ヶ小隊 主力を徳之島に分遣し該方面の陣地強化並に飛行場設定を実施す 十月一日那覇空襲直後島尻郡津嘉山に位置し依然前任務を続行す 徳之島分遣小隊は昭和二十年一月該方面の任務を終了し原所屬に復帰し前記主力の任務を分担す

天一号 作戦開始の戦斗

左記

作戦開始に伴ひ左記各項の如く行動す

- 一 主力を以て軍司令部の陣地強化一部を以て沖繩陸軍病院施設
- 二 敵上陸に対し軍命令に基き一ヶ小隊を持編や四連隊に配属し津嘉山地区の軍司令部各部及貨物廠の警備に任ず
後該小隊の井上火尉以下八〇名は石部隊に属し首里北方前田の線に陣地を移動し戦斗に参加す 次で本小隊は石部隊と共に島尻郡興座に後退し糸洲に於て殆ど全滅す
- 三 中隊の主力は敵上陸と共に津嘉山警備隊は主力となり津嘉山地区の警備に任ず

運玉森小那覇、興那原方面に敵進出せるに方り主力は島尻郡南風原村克平の高地に陣地を確保し該方面より回揚方面に進出石山部隊背後をつかんとする敵の該高地に於て強力に拒止し随時攻撃す 隣接海軍、暁の各部隊全滅するも屈せず遂に十日間(五月二十一日より五月三十日迄)陣地を死守し各部隊並軍司令部島尻後退を容易ならしめ且敵の島尻方面への進出を防禦せり仍て軍司令官より賞詞を受く
此の向主力の損害夥しく遂に戦斗を中止し軍命令に基き六月一日島尻郡山坂に後退し兵力(残存)四〇名を以て陸軍病院の施設に任じたるも敵の進出に伴ひ六月二十一日に至り組織ある業務不可となり六月二十二日中隊の

年月日

概

要

負傷者等解散寸

作井六十四中部隊略歴

概

要

年月日

昭一六七

八

一九七

東部六十三部隊に於て作井六十四中隊編成

満州国虎林着閑東軍に編入

虎林出発釜山より船にて同年八月沖繩那覇港上陸

カニ指揮及編成の概要

中隊長 藤沢大尉 寺村中尉 井上中尉 前村小尉 加藤准尉

指揮班長 加藤准尉 部下 山下曹長 川淵曹長 松永軍曹 紅川軍曹 藤巻

軍曹 宮田兵長 井上兵長 松下上等兵 堀内上等兵 津田上等兵

カ一小隊長 寺村中尉 古沢軍曹 上田軍曹 石田伍長 四谷上等兵

カ二小隊長 前村小尉 藤井軍曹 萩野伍長 脇田兵長 池田上等兵 戸谷上等

兵 高橋上等兵 渡辺上等兵 沢野兵長

カ三小隊長 井上中尉 小笠原軍曹 上田伍長 寺島兵長 宮本上等兵

一 作戦前線部隊作戦開始後、石部隊工兵隊配属

カ三戦斗経過の概要

一 首里及新川附近に戦斗 二十年六月島尻山城に戦進 六月二十四日切込に

出動其の後不明となる